

3. 2 夜空の明るさに関する課題研究

(1) 研究開発の課題（研究概要・ねらい）

全国の連携校・連携機関24地点での自動観測から得られたデータと、特定の地区での一斉多点観測によって得られたデータから、生徒・児童自身が考察した結果を課題研究発表会で発表する。

(2) 研究開発の経緯

コアSSHとして実施してきた活動を継続し、MLの活用による連携校との連絡(小中学生・保護者との連絡には非公開のFacebookグループも活用)、各校からアップされる共有フォルダのデータを生かし、生徒・児童の課題研究を発展させる。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

発表会の準備から当日の進行までを生徒が運営することにより、生徒のリーダー性・協調性・発想力や企画力・論理的思考能力・他者に働きかける外向的で活発な意欲が高まることが期待できる。

イ 連携先

星空公団 小野間 史樹氏

ウ 参加生徒

東筑紫学園高等学校、遺愛女子中学高校、群馬県立前橋女子高等学校、香川県立三本松高等学校、海城中学高等学校、兵庫県立龍野高等学校、三重県立津高等学校、一宮市立南部中学校、一宮市立向山小学校、高砂市立高砂小学校、本校 の児童・生徒29名+教員・一般 15名

エ 日時場所

9月21日（月）13:00～16:30 一宮市 i -ビル大会議室

オ 実施内容

小学生から高校生までが口頭発表し、議論を重ねた。また、最後に講師の小野間氏から講評（全体コメント）をしていただいた。途中、ポスター発表の時間を長めに設定し、参加者の議論を通じた交流を深めた。オプションイベントで駅前観望会を開催した。

カ 検証（成果と反省）

駅前観望会のような普及活動も重要で、多くの方に参加してもらえた。将来的には発表会にも一般の方が多数参加していただくと良いと思う。今回は広報にも気を配ったが、会議室が駅ビルのわかりにくい場所にあるためか、チラシを見ての参加者は2名であった。アンケートから興味関心が強まり、観測・研究への意欲が高まり、協調性の向上に役立つことが分かる。小中学生の発表は、高校生との双方に良い刺激となるので、今後とも普及活動の一環としても継続していきたい。



ポスター発表

駅前観望会

